

第 V 章

地域別の方向性

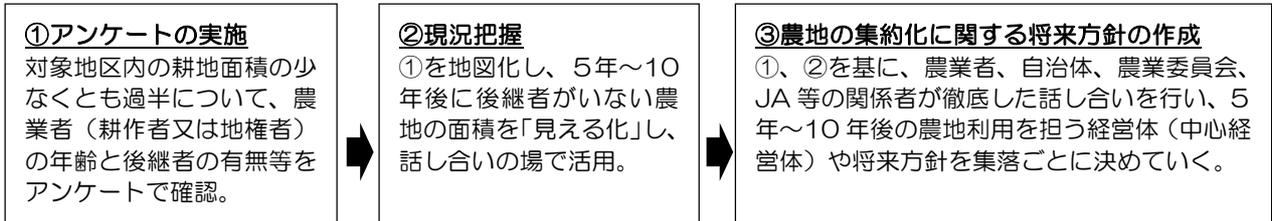
1 人・農地プランについて

1-1 人・農地プランの実質化

長崎市においては、平成 24～25 年度に、今後の中心経営体、農地の利活用方針及び地域農業のあり方等を定めた「人・農地プラン」を 10 地区 24 集落において作成しました。

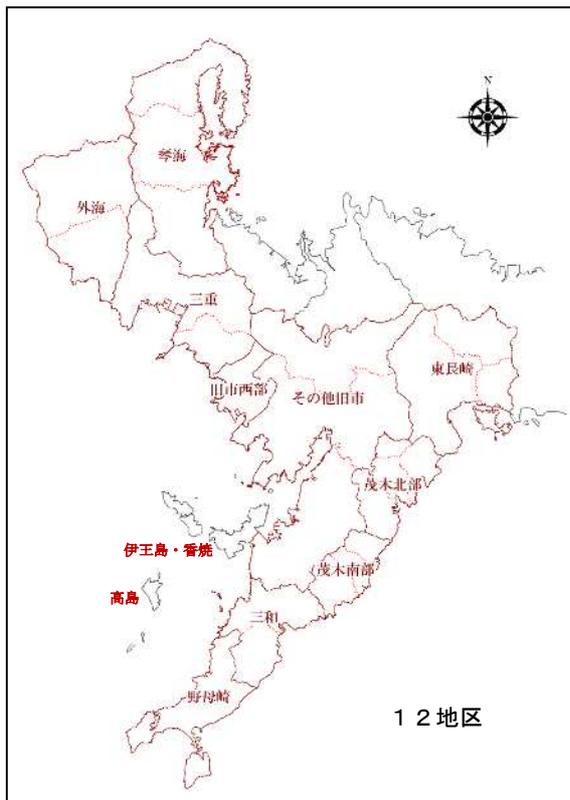
令和元年5月に農地中間管理事業の推進に関する法律等の一部を改正する法律が公布されたことに伴い、「人・農地プラン」を核に、農地の利用集積・集約化を一体的に推進していく方針となり、人・農地プランを実質化するための具体的な進め方が示されたため、これに基づき、12 地区 26 集落で人・農地プランの実質化とプランの実現に向けた取組みを進めていきます。

人・農地プランの実質化のプロセス



1-2 実質化プラン策定後の取組み

実質化プラン策定時に把握した対象農地について、所有者の意向把握を行いながら、将来的な経営農地をストックし、農地中間管理機構を通じた賃貸借のほか、集落の実情に応じた小規模（5ha未満）又は大規模（5ha以上）の基盤整備等により、中心経営体等へ農地の集約化を行います。



地区名	集落名	地区名	集落名
茂木南部	大崎	外海	神浦
	宮摺		黒崎
	千々	三和	川原・宮崎
茂木北部	北浦	野母崎	蚊焼・布巻・藤田尾・為石
	田手原		高浜・野母・脇岬・樺島
	太田尾・飯香浦		
東長崎	茂木	琴海	長浦・戸根・戸根原
	矢上・日見		形上・尾戸
	戸石		村松・西海
三重	古賀	高島	高島
	式見		
旧市西部	三重	伊王島・香焼	伊王島・香焼
	手熊・柿泊		
その他旧市	旧市中央部		
	旧市南部		
	旧市北部		

人・農地プランの概要

地区の現状

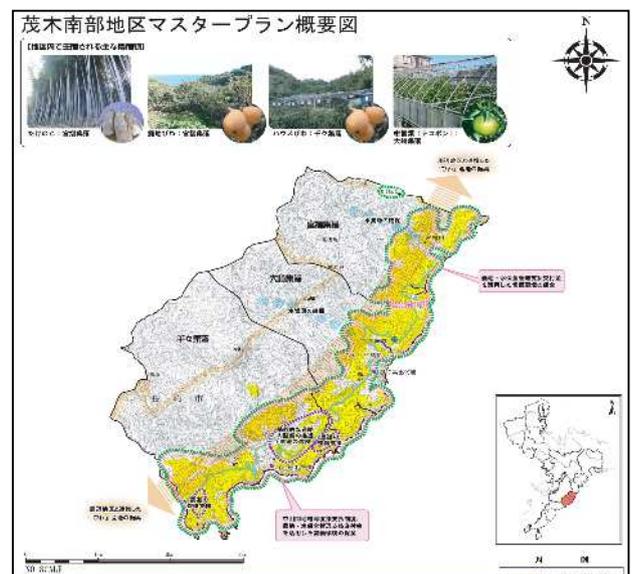
- ◆地区内で生産されている「びわ」は、「長崎びわ」として地域ブランド化され全国に出荷されています。
- ◆一部農家で「びわ」の優良品種である「なつたより」の改植・補植が進められ、収穫量も増加傾向にあります。
- ◆有害鳥獣被害（シカ・イノシシ）が深刻化しています。

地区の主要課題

- ◆「びわ」を中心とした農業振興
- ◆新たな担い手、経営体の育成・確保
- ◆営農環境の改善

地区の取組方針

- ◆「びわ」を中心とした産地の振興に努めます。
- ◆優良農地を中心とした生産基盤の維持、保全に努めます。
- ◆将来を担う多様な経営体の育成・確保に向けた取り組みを推進します。



人・農地プランの実質化

実質化に向けた課題

- ◆農家の後継者や新規参入者の確保が課題となっています。
- ◆気象災害により大きく経営が左右される産地であり、加えて有害鳥獣被害対策を含め、災害に強い継続できる産地づくりと集落を活性化する取組みが必要です。

実質化の方針

- ◆農地利用最適化アンケートをはじめ、認定農業者の農業経営改善計画、農地利用最適化アンケートを活用し、意向把握に努めます。
- ◆中山間地域等直接支払や多面的機能支払及び実質化人・農地プランの推進の中で、人と農地のマッチングを行い、機構集積協力金を含めた、地域での農地集約の取組みを加速化します。
- ◆JAが開催するびわ講座修了者の受け入れや地域外のボランティアとの連携など、外部から人を呼び込める環境整備を進め、農地の流動化と集落の活性化に取り組んでいきます。

人・農地プランの概要

地区の現状

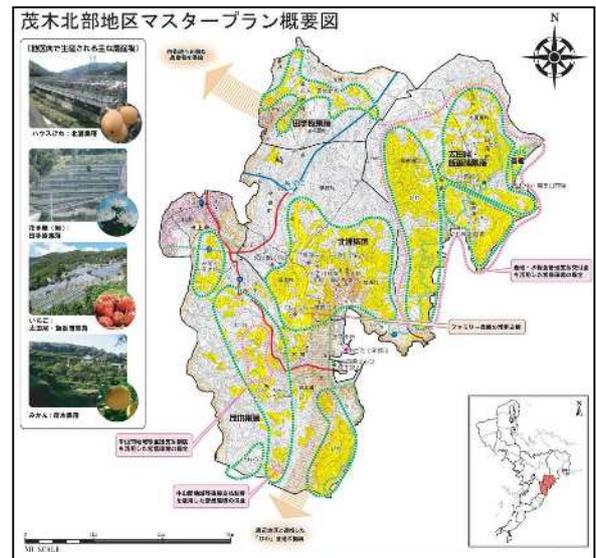
地区内では地域ブランドとして全国に出荷されている「びわ」をはじめ、「ポンカン」「みかん」「なし」「ハウスもも」などの果樹類、「ねぎ」「ほうれんそう」を中心とした露地野菜、「いちご」などの施設野菜、「きく」「シクラメン」などを中心とした花き類、畜産類など、多種多様な農産物が生産されている地区となっています。

地区の主要課題

- ◆「びわ」を中心とした農業振興
- ◆新たな担い手、経営体の育成・確保
- ◆農村環境の維持・保全
- ◆営農環境の改善
- ◆多様な農業生産活動の支援

地区の取組方針

- ◆「びわ」や「柑橘類」を中心とした産地の振興に努めます。
- ◆将来を担う多様な経営体の育成・確保に向けた取り組みを推進します。
- ◆生産基盤の改善を図るとともに、営農環境の維持、保全に努めます。
- ◆意欲ある農業生産活動を積極的に支援し、地区内の農業振興に努めます。



人・農地プランの実質化

実質化に向けた課題

- ◆集落内の斜面地では、果樹類等が栽培されており、過去に基盤整備を行った平坦な農地もあるが、農地が狭小で点在しているため、農地の利用集積・集約化が進んでいません。
- ◆イノシシによる被害で営農意欲が低下しています。
- ◆過去に畑地かんがい施設が整備されたが、整備から30年以上が経過しており、ポンプやタンクの老朽化に伴う維持管理が負担となっています。

実質化の方針

- ◆農地利用最適化アンケートをはじめ、認定農業者の農業経営改善計画や、認定新規就農者の青年等就農計画等により、新規参入や規模拡大の意向を把握します。
- ◆農地中間管理機構を活用し、中心経営体への農地の集約を図るとともに、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れなどを促進することにより対応します。
- ◆市街地に近い立地条件を活かし、直売所向けの出荷を推進し、老朽化したハウスの長寿命化や水利施設の適正管理に努め、後継者を中心とした担い手が農業に参入しやすい環境を整えるとともに、グリーンツーリズムや6次産業化等、農業以外の他産業との連携により、外部から人を呼び込む取り組みを進め、農地の流動化と集落の活性化に取り組んでいきます。

人・農地プランの概要

地区の現状

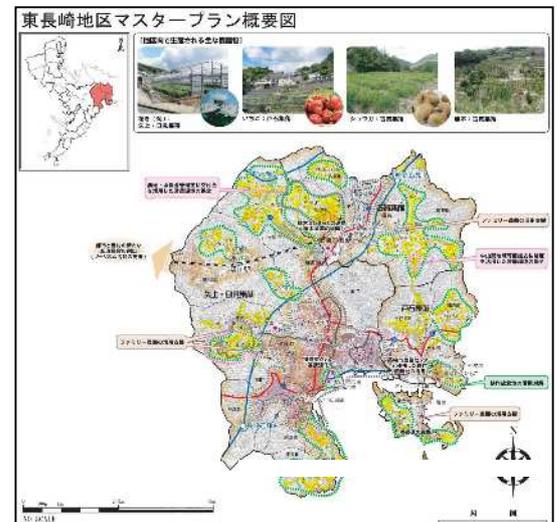
- ◆地区内では、「いちご」などの施設野菜、「しょうが」などの露地野菜、「菊」などの花き類のほか、植木産業が盛んな地区となっています。
- ◆地区内には「長崎市農業センター」のほか、「長崎市中央卸売市場」、「長崎花市場」、「長崎市植木センター」など農業関連施設や物流拠点多く点在しています。
- ◆地区内は国道（34号）沿いを中心に都市化が進展していますが、地区内には6箇所の直売所があり、地元で生産された新鮮な農産物を都市部の住民へ提供する場として活用されています。

地区の主要課題

- ◆既往の農業生産活動を活かした農業振興
- ◆新たな担い手、経営体及び集落営農機能の育成・確保
- ◆農村環境の維持・保全
- ◆営農環境の改善

地区の取組方針

- ◆意欲ある農業生産活動を積極的に支援し、地区内の農業振興に努めます。
- ◆将来を担う多様な経営体の育成・確保に向けた取り組みを推進します。
- ◆生産基盤の改善を図るとともに、営農環境の維持、保全に努めます。



人・農地プランの実質化

実質化に向けた課題

- ◆農地が小規模かつ急傾斜で、耕作道がない農地も多く、イノシシ等の有害鳥獣による被害も拡大しており、耕作放棄地が増加しています。
- ◆集落の一部地域においては、新幹線整備に伴う減湯水対策として、新たな水利施設が整備されており、有効利用を図る必要があります。
- ◆基盤整備に向けた協議や現地検討が進められているが、担い手の確保が課題となっています。

実質化の方針

- ◆農地利用最適化アンケートをはじめ、認定農業者の農業経営改善計画や、認定新規就農者の青年等就農計画等により、新規参入や規模拡大の意向を把握します。
- ◆農地中間管理機構を活用し、中心経営体への農地の集約を図るとともに、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れなどを促進することにより対応します。
- ◆集落の現状に合った基盤整備を進めることにより、新たな担い手へ農地を集約化します。

人・農地プランの概要

地区の現状

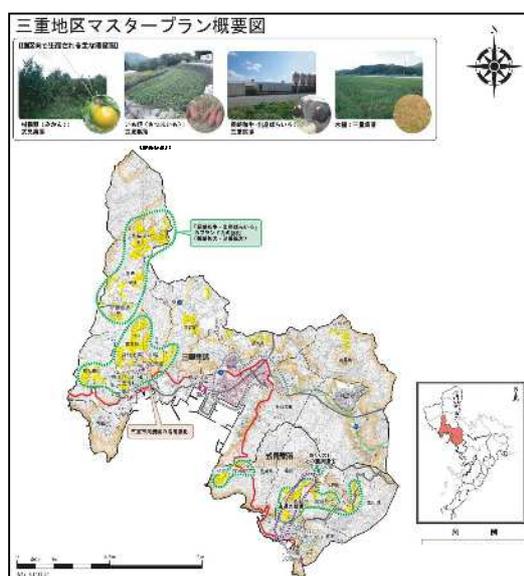
- ◆地区内では、水稻、柑橘類、野菜類、畜産などが生産されており、特に畜産の「長崎和牛・出島ばらいろ」は長崎市の主要ブランドとして中部圏を中心として都市部への出荷も盛んとなっています。
- ◆地区内で生産された水稻、野菜類などの多様な農産物は、直売所を中心に出荷されています。
- ◆比較的市街地に近く、地区内には「あぐりの丘」や「市民農園」もあることから、都市部住民の農業への理解の促進や憩いの場として親しまれています。

地区の主要課題

- ◆新たな担い手、経営体の育成・確保
- ◆農村環境の維持・保全
- ◆新たな農業生産活動による農業振興

地区の取組方針

- ◆意欲ある農業生産活動を積極的に支援し、地区内の農業振興に努めます。
- ◆多様な営農支援を積極的に推進し、農村環境の維持・保全に努めます。



人・農地プランの実質化

実質化に向けた課題

- ◆高齢化や後継者不足、イノシシやヒヨドリによる有害鳥獣の被害が拡大しており、耕作放棄地の増加が課題となっています。
- ◆基盤整備に向けた協議や現地検討が進められており、優良農地の確保が期待されています。

実質化の方針

- ◆農地利用最適化アンケートをはじめ、認定農業者の農業経営改善計画や、認定新規就農者の青年等就農計画等により、新規参入や規模拡大の意向を把握します。
- ◆農地中間管理機構を活用し、中心経営体への農地の集約を図るとともに、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れなどを促進することにより対応します。
- ◆集落の現状に合った基盤整備を進めることにより、新たな担い手へ農地を集約化します。
- ◆直売所向けの出荷を推進するほか、農産物の加工にも取り組みます。

人・農地プランの概要

地区の現状

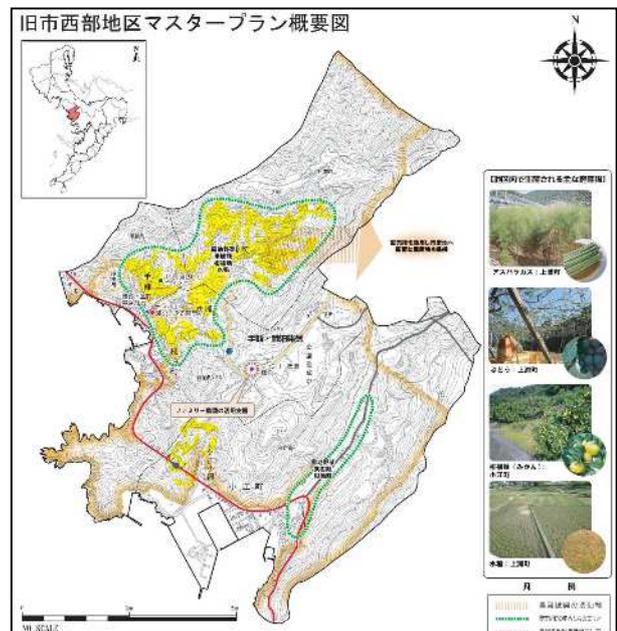
- ◆地区内は手熊川流域と小江川流域で形成され、「水稻」のほか、「たまねぎ」などの露地野菜、「ぶどう」、「柑橘類」などの果樹類など、多様な農産物が生産されています。
- ◆高齢化が進んでいますが営農意欲が高く、農地は比較的活用されています。
- ◆市街地に近い地区の東部（柿泊町付近）では、一部宅地化が進んでいるほか、地区内には「ファミリー農園」もあることから、都市部住民の農業への理解の促進や憩いの場として親しまれています。

地区の主要課題

- ◆新たな担い手、経営体の育成・確保
- ◆農村環境の維持・保全
- ◆営農環境の改善

地区の取組方針

- ◆意欲ある農業生産活動を積極的に支援し、地区内の農業振興に努めます。
- ◆多様な営農支援を積極的に推進し、農村環境の維持・保全に努めます。



人・農地プランの実質化

実質化に向けた課題

- ◆農地が小規模かつ急傾斜で、耕作道がない農地も多く、イノシシ等の有害鳥獣による被害も拡大しており、耕作放棄地が増加しています。

実質化の方針

- ◆農地利用最適化アンケートをはじめ、認定農業者の農業経営改善計画や、認定新規就農者の青年等就農計画等により、新規参入や規模拡大の意向を把握します。
- ◆農地中間管理機構を活用し、中心経営体への農地の集約を図るとともに、入作を希望する認定農業者、認定新規就農者や法人の受入れなどを促進することにより対応します。

人・農地プランの概要

地区の現状

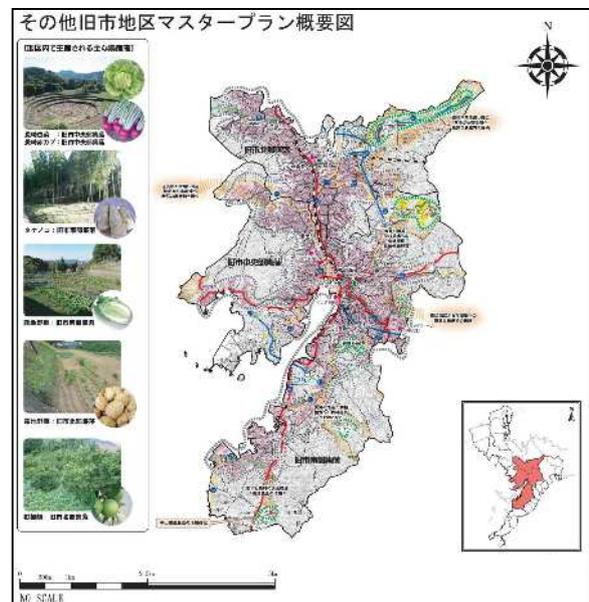
- ◆平地部から斜面地にかけて、地区全体が都市化しています。
- ◆都市化した宅地周辺の斜面地などを中心に、花き類や露地野菜や果樹類など少量多品目で生産されています。
- ◆生産された作物は直売所への出荷や自家消費が中心となっています。
- ◆市街地に近く、地区内には「市民農園」もあることから、都市部住民の農業への理解の促進や憩いの場として親しまれています。

地区の主要課題

- ◆農村環境の維持・保全
- ◆新たな担い手、経営体の育成・確保

地区の取組方針

- ◆多様な営農支援を積極的に推進し、農村環境の維持・保全に努めます。
- ◆意欲ある農業生産活動を積極的に支援し、地区内の農業振興に努めます。
- ◆食育を通じた都市と農村部の交流促進に努めます。



人・農地プランの実質化

実質化に向けた課題

- ◆農地が小規模かつ急傾斜で、イノシシ等の有害鳥獣による被害も拡大しており、耕作放棄地が増加しています。

実質化の方針

- ◆農地利用最適化アンケートをはじめ、認定農業者の農業経営改善計画や、認定新規就農者の青年等就農計画等により、新規参入や規模拡大の意向を把握します。
- ◆農地中間管理機構を活用し、中心経営体への農地の集約を図るとともに、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れなどを促進することにより対応します。
- ◆市街地に近い立地条件を活かし、直売所向けの出荷を推進するほか、都市と農村部の交流を進めることで、農地の有効活用を図ります。

人・農地プランの概要

地区の現状

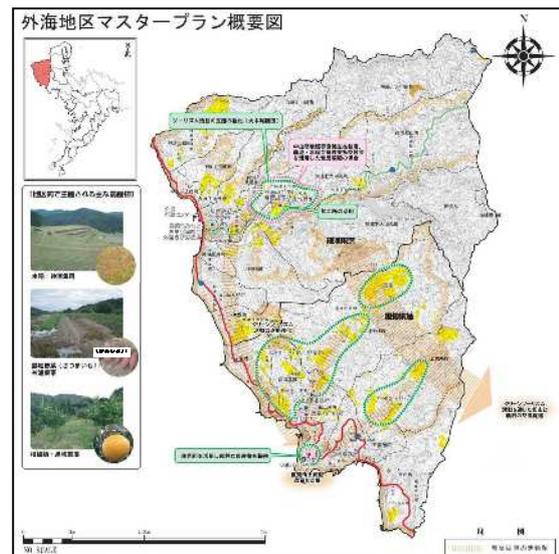
- ◆「大中尾棚田保全組合」や「外海ツーリズム協議会」などの団体が多様なグリーンツーリズム活動を積極的に展開しています。
- ◆道の駅「夕陽が丘そとめ」にある直売所へ出荷する農家が多くなっています。
- ◆営農者の高齢化が顕著な地区で、新たな担い手や後継者が不足している状況です。

地区の主要課題

- ◆農村環境の維持・保全
- ◆新たな担い手、経営体の育成・確保

地区の取組方針

- ◆多様な営農支援を積極的に推進し、農村環境の維持・保全に努めます。
- ◆将来を担う多様な経営体の育成・確保に向けた取り組みを推進します。
- ◆ツーリズム活動を通じた都市と農村部の交流促進に努めます。



人・農地プランの実質化

実質化に向けた課題

- ◆集落内には日本棚田百選にも認定された大中尾棚田があり、隣接集落には市内で唯一の道の駅「夕陽が丘そとめ」内に農産物直売所があるため、水稻や直売所向けの野菜が生産されています。
- ◆本集落は市内でも最も高齢化が顕著な地域であり、深刻な後継者不足とそれに伴う耕作放棄地の増加が課題となっています。

実質化の方針

- ◆農地利用最適化アンケートをはじめ、認定農業者の農業経営改善計画や、認定新規就農者の青年等就農計画等により、新規参入や規模拡大の意向を把握します。
- ◆農地中間管理機構を活用し中心経営体への農地の集約を図るとともに、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進することにより対応します。
- ◆大中尾棚田を中心に、外部から人を呼び込める環境整備を進め、農地の流動化と集落の活性化に取り組んでいきます。
- ◆「ゆうこう」等の特産農産物の加工品のPR販売や、グリーンツーリズム体験メニューの充実など、外部から人を呼び込める環境整備を進め、農地の流動化と集落の活性化に取り組んでいきます。

人・農地プランの概要

地区の現状

- ◆川原・宮崎集落を中心として、「びわ」などの果樹類や「キンギョソウ」、「トルコギキョウ」などの花き類の生産が盛んな地区となっています。
- ◆地区内で生産された上記品目以外の果樹類、野菜類などは地区内の直売所へ出荷されています。
- ◆地区内には基盤整備された農業団地や比較的平坦でまとまった土地があり、良好な農業生産基盤が確保されています。

地区の主要課題

- ◆「びわ」を中心とした農業振興
- ◆農村環境の維持・保全
- ◆意欲ある経営体、リーダーの育成・確保

地区の取組方針

- ◆「びわ」や「花き類」を中心とした産地の振興に努めます。
- ◆将来を担う多様な経営体の育成・確保に向けた取り組みを推進します。
- ◆多様な営農支援を積極的に推進し、農村環境の維持・保全に努めます。



人・農地プランの実質化

実質化に向けた課題

- ◆宮崎ダム周辺に基盤整備されてまとまった農地があるが、土壌条件が悪いため、放任園も多い。
- ◆施設の老朽化に伴う維持管理や、水源の確保などが課題となっています。
- ◆基盤整備に向けた協議や現地検討が進められているが、担い手の確保が課題となっています。

実質化の方針

- ◆農地利用最適化アンケートをはじめ、認定農業者の農業経営改善計画や、認定新規就農者の青年等就農計画等により、新規参入や規模拡大の意向を把握します。
- ◆農地中間管理機構を活用し、中心経営体への農地の集約を図るとともに、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れなどを促進することにより対応します。
- ◆定年帰農者や移住者など、地域外からの新規就農希望者の受け入れを促進し、農地の流動化と集落の活性化に取り組んでいきます。

人・農地プランの概要

地区の現状

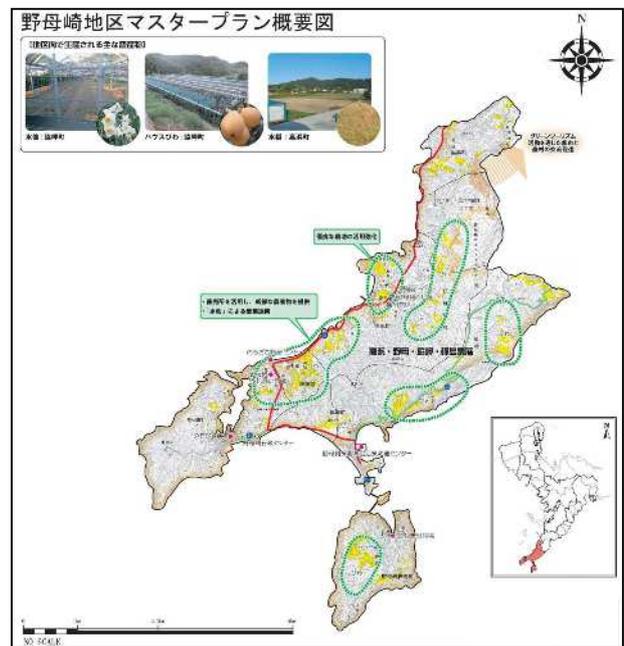
- ◆兼業農家が多く、「びわ」のほか、「水稻」、「水仙」などが生産されています。
- ◆生産された作物は、全体的に直売所への出荷や自家消費が中心となっています。
- ◆「水仙」は野母崎地区の特産品となっており、地区内にある水仙の里では毎年1月に「のもぎき水仙まつり」が開催され、多くの観光客で賑わっています。
- ◆近年、山間部などを中心としてイノシシ等による有害鳥獣被害が生じています。

地区の主要課題

- ◆既往の農業生産活動を活かした農業振興
- ◆新たな担い手、経営体の育成・確保

地区の取組方針

- ◆意欲ある農業生産活動を積極的に支援し、地区内の農業振興に努めます。
- ◆将来を担う多様な経営体の育成・確保に向けた取り組みを推進します。



人・農地プランの実質化

実質化に向けた課題

- ◆高齢化や担い手不足は深刻であり、イノシシによる被害も多発しており、耕作放棄地の増加が課題となっています。

実質化の方針

- ◆農地利用最適化アンケートをはじめ、認定農業者の農業経営改善計画や、認定新規就農者の青年等就農計画等により、新規参入や規模拡大の意向を把握します。
- ◆農地中間管理機構を活用し中心経営体への農地の集約を図るとともに、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進することにより対応します。
- ◆定年帰農者や移住者など、地域外からの新規就農希望者の受け入れを促進し、農地の流動化と集落の活性化に取り組んでいきます。

人・農地プランの概要

地区の現状

- ◆形上・尾戸集落及び長浦・戸根・戸根原集落を中心に良好な営農環境が構築され、市内でも有数の農業が盛んな地区となっています。
- ◆地区内では、「水稻」のほか、「いちご」「アスパラガス」「ミニトマト」などを中心とした施設野菜、「柑橘類」、「ハウスもも」「ぶどう」を中心とした果樹類など、多様な農産物が生産されています。
- ◆地区内には「市民農園」があり、都市部住民の農業への理解の促進や憩いの場として親しまれています。

地区の主要課題

- ◆農村環境の維持・保全
- ◆新たな担い手、経営体の育成・確保
- ◆営農環境の改善

地区の取組方針

- ◆地区内の連携強化を図り、農産物を安定して供給できる産地の育成に努めます。
- ◆将来を担う多様な経営体の育成・確保に向けた取り組みを推進します。
- ◆多様な営農支援を積極的に推進し、農村環境の維持・保全に努めます。
- ◆意欲ある農業生産活動を積極的に支援し、地区内の農業振興に努めます。



人・農地プランの実質化

実質化に向けた課題

- ◆みかんや中晩柑、アスパラガスを中心に、多品目が栽培されており、主にJA系統の直売所への出荷が行われているが、生産者の高齢化が進んでおり、担い手不足が課題となっています。
- ◆新規就農希望者は増えていますが、条件のいい農地が不足しています。

実質化の方針

- ◆農地利用最適化アンケートをはじめ、認定農業者の農業経営改善計画や、認定新規就農者の青年等就農計画等により、新規参入や規模拡大の意向を把握します。
- ◆農地中間管理機構を活用し中心経営体への農地の集約を図るとともに、入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進することにより対応します。
- ◆基盤整備地区は、施設園芸及び水田畑地化の取組みを進めるとともに、樹園地においては、施設・露地栽培の安定生産を促し、小規模基盤整備を行いながら継続的な活用を図ります。また、グリーンツーリズム活動など、外部から人を呼び込む体制を整備することで、農地の利活用を推進します。

地区の現状

- ◆大半が自給的農家であり、一戸当たりの耕作面積が少なく、生産者の高齢化やイノシシ等の有害鳥獣被害により、遊休農地が増加しています。

地区の主要課題

- ◆農村環境の維持・保全

地区の取組方針

- ◆遊休農地の有効利用を図り、地域内での栽培の推進に努めます。
- ◆農村環境の維持、保全に努めます。

実質化の方針

- ◆農地利用最適化アンケートをはじめ、認定農業者の農業経営改善計画や、認定新規就農者の青年等就農計画等により、新規参入や規模拡大の意向を把握します。

地区の現状

- ◆農地が小規模かつ生産者の高齢化が進んでおり、農業生産基盤が極めて弱い状況にあります。
- ◆炭鉱住宅解体跡地を利用して、高島フルーティートマトのハウス栽培を行っており、企業参入により経営がなされています。
- ◆地区内には「市民農園」があり、近隣住民の農業体験の場として親しまれています。

地区の主要課題

- ◆営農環境の維持・保全

地区の取組方針

- ◆生産基盤の改善を図るとともに、営農環境の維持、保全に努めます。
- ◆高島トマト、メロンの生産性の向上に努めます。

実質化の方針

- ◆農地利用最適化アンケートにより、規模拡大の意向を把握します。
- ◆農産加工品の開発・販売や、新規品目の検討に取り組んでいきます。
- ◆グリーンツーリズムや6次産業化等、他分野との連携により、地域外から人を呼び込む取り組みを進め、集落の活性化に取り組んでいきます。

